

# びるだん和紙を 愛した作家たち特別展



2017年**3月25日**(土曜日)から**28日**(水曜日)まで(26日・日曜日休み)

**入場無料** 午前9時00分から午後8時00分まで(※土曜日/午前9:00から午後5時00分まで)日曜日休館

**会場** 大阪府立中之島図書館(重要文化財) 2階多目的スペース

**内容** 富山県朝日町蛭谷は歴史あるびるだん和紙とバタバタ茶の里。  
びるだん和紙を愛した作家の作品。  
個人蔵秘蔵作品を特別展示いたします。

幻のお茶バタバタ茶の体験会25日午前11時から12時会場で開催いたします。

**主催** 「いってみたい、住みたい朝日町」ブランドづくりプロジェクト実行委員会

**特別協力** 株式会社アスウェル(大阪府立中之島図書館指定管理者)

**HP** <http://birudan.com/>



〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島1丁目2-10

**HP** <https://www.nakanoshima-library.jp/>

## びるだん和紙

びるだんの冬の日、雪道を歩く。

カタン、タボンと紙漉きの音。

女たちは熱心に競い紙を漉いたという。

古くは加越能文庫に

1695年頃「中折紙少々漉申候 蛭谷村」記される。

昭和の初め120軒をこえる紙漉き場があり、

戦後、画人が滞在し創作した記憶が人々に残る。

女たちの1枚でも多くの紙を漉きたいとの思いが、

うすく強い紙を生み、障子などに重宝された。

大きな火事が村を襲い、多くの道具が焼失された。

時代は近代紙が常用を奪ったが、画仙紙として愛された。

自然の楮やトロロアオイから生まれるびるだん和紙は、

はじめ茶色く、時を経てまるで白銀の風景のように白くなる。

今もその面影を

多くの画人に愛されたびるだん和紙に残す。

びるだんの思いは、びるだん和紙で伝えられる。

とやま  
朝日町

# バタバタ茶

早朝からのひと仕事を終え、  
自慢の山菜の煮しめや漬物を手に  
人々が集まる。

茶葉を木綿袋に入れ釜で沸かす。  
五郎八茶碗に茶杓でバタバタ茶をそそぐ。  
塩を少し入れ、すす竹を二本あわせた茶筌で、  
バタバタとたてる。

講が開かれると御領解などからはじまり、献茶、飲茶となる。  
いまはむかしの習わし。  
蓮如上人さまの越中布教のおりに飲まれたと語り継がれる。

バタバタ茶の日、びるだんの人々は笑い、語り合い、励ましあった。

びるだんに今も残る、あたたかなこころの時間。

**幻のお茶バタバタ茶の体験会**  
25日午前11時から12時会場で開催いたします。

もっこもっこ  
朝日町   
<http://asahimma.com/>



## びるだん物語

自然の力と共に生きる。

幻のバタバタ茶をたて、のむ。  
素朴であたたかな時。

自然をびるだん和紙に漉く。  
凜としたやさしさにふれる。

びるだんが紡ぐ思い。

ゆったりとした、こころの旅。

富山県朝日町蛭谷

<http://birudan.com/>

とやま  
朝日町 